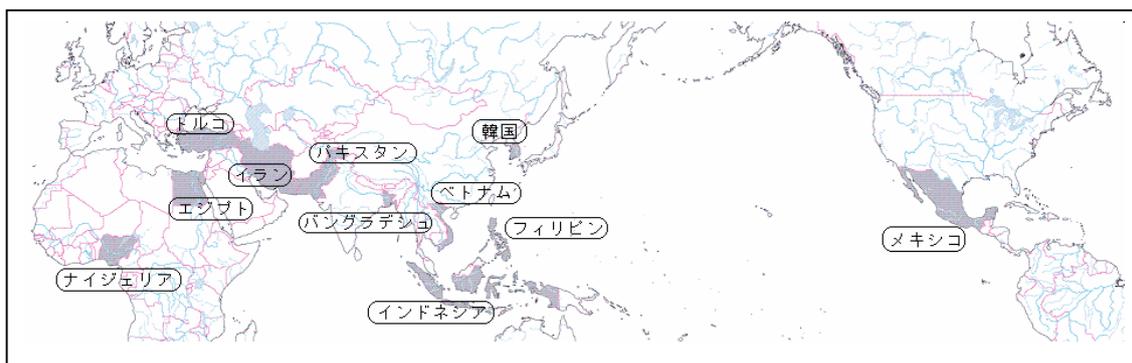


## NEXT11 とは

2007 年 11 月

2003 年に BRICs に注目して分析レポートを発表したゴールドマン・サックスは、2005 年に “How Solid are the BRICs” (Jim O’Neil, Dominic Wilson, Roopa Purushothaman, Anna Stupnytska Global Economics Paper No: 134)を出し、2つの命題について検討している。最初の命題はもちろん BRICs についてであるが、BRICs4 カ国は予想よりはるかに速いスピードで成長しているので、“Dream” すなわち 4カ国が世界の経済をリードする日は、彼らが 2003 年に考えたよりもずっと早く実現する可能性が高いとしている。

次に 2 番目にこの BRICs につづく可能性のある、新興 11 カ国について言及している。この 11 カ国すなわち NEXT11 として、ゴールドマン・サックスはメキシコ、韓国、フィリピン、インドネシア、ベトナム、バングラデシュ、パキスタン、イラン、トルコ、エジプト、ナイジェリアをあげている。



NEXT11 は韓国を除いて、基本的には人口の多い途上国を選んでいると言えよう。ちなみに韓国は、国際通貨基金 (IMF) の分類では、日米など先進 7 カ国をふくむ先進 30 か国の中に分類されている。NEXT11 は韓国のように先進国といえる国から、バングラデシュのようにまだまだ貧困に苦しんでいる後発の途上国、イランやナイジェリアのようなエネルギー価格の高騰で潤っている国、ベトナムなどの急速に工業化を推進している国など多種多様であり、イスラム諸国会議機構の参加国も 7 カ国ある。ただし共通して言えるのは、それぞれの国は固有の文化や資源を保有し、それぞれのやり方で経済発展を推進しようとしている国々であり、今後の直接投資の対象として検討されるべき国々である。

NEXT11 については、大喜多も参加した『NEXT11 経済がみるみるわかる本』(アジア&ワールド協会編著)が、PHP 出版から 2008 年 2 月に発行される予定なので、参考にされるとよいと思う。